

沖縄型金型

芽吹く技術

〈2〉

うるま市の国際物流拠点産業集積地域で水色屋根が目を引く長屋型の素形材産業向け実質工場。県内外の金型関連企業5社が入居し、それぞれ金型の製作や研究開発などに取り組む。一方で併設する人材育成の金型技術研究センターを中心に各企業の連携が積極的だ。社員同士がそれぞれの事務所を往来し意見交換。互いに得意分野の知識を出し合い、技術向上につなげている。

技術協力

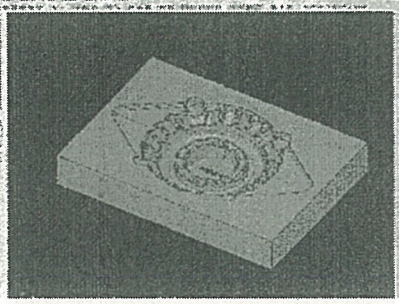
コンピュータを使った設計支援システム(CAD)や金型製造向け設計支援システム(CAD)の検証事業を手掛けるNIDES、エンジニアリングシステムズ、マニファクチャリングラボの社員らによる市の素形材産業向け実質工場



企業の垣根越え連携

木下篤社長)は金型製造業向けに3次元のシステムを自社開発する。今年1月、工場に入居し研究開発の拠点となる「マニファクチャリングラボ」を開設した。

「CADを使ってどのように金型が製造されるかをここで確認している」。NIDES製造技術部マニファクチャリンググループの小野田秀幸社長、中国120社と業績を伸ばす一方で、システムが金型製造の現場で実際どのように機能しているか、顧客のニーズ把握に課題を抱えていた。



NIDESエンジニアリングシステムズの金型設計システムの一画面。画面はシステムで手掛けた金型の設計図が映る(同社提供)

小野田氏は「自社に加工技術がないため検証できない。顧客の製造現場に駆け付けても製造機器はフル稼働し検証する場所も時間もなかった」と振り返る。

沖縄に拠点を設置してからは、金型技術研究センター所

システム検証で効果大

有の最先端設備を借り、操作方法は別の入居企業から指導してもらおうなど自ら金型加工を实践。情報を集積し検証結果を基にシステムを修正するなど、懸案だった検証事業を始めることができた。ラボにはウェブカメラを設置し、本社と会議を開くなど顧客ニーズに即応する体制の構築を目指している。

社団法人ものづくりネットワーク沖縄の中村大助企画開発部長は「企業集積で設計から加工、仕上げまで一貫した金型技術が集約した。金型技術研究センターによる人材育成事業が土台にあるため、連携はごく自然に生まれる。技術レベルを上げられる強みがある」と強調。垣根を越えた取り組みが発展の原動力になっている。

(謝花史哲)
(水一金曜掲載)